

## ★中里城址古代ロマンコンサートの軌跡

### ブローグ

平成3年(1991)春、発掘中の中里城遺跡に前年帰郷したばかりの奈良修の姿があった。続々と発見される古代の遺構・遺物を目の当たりにした奈良は、感銘を受けた様子で遺跡を後にした。

当時奈良が加わっていた「なかさとものがたり研究会(以下もの研)」では、毎月会員が地域づくりに関する提案や課題などの事例発表を行っていたが、6月には奈良に順番が回ってきた。奈良は、地域を代表する資源として、中里城遺跡を広くPRする必要性を延べ、その方法として遺跡内でのコンサート開催を提言した。会員たちの間では意見が交わされたが、最後は座長北川彰男の決断によって開催が決定した。

出演者については、奈良修と大学時代から交流のあったシンガーソングライター河島英五に白羽の矢が立った。河島は若い頃から遺跡に関心が深く、比叡山を始めとする数多くの野外コンサートを経験していたことも選定を後押しした。

また場所は中里城遺跡の一隅にある神明宮境内、開催期日は盆中の8月16日と決定した。二ヶ月弱という準備期間の短さが危惧されたが、河島英五の献身的な協力と、急速に盛り上がった会員の熱意の前には、全く障害とならなかった。

### 1991

古代ロマンに夢をはせて

中里城址古代ロマンコンサート'91河島英五ライブ

現在発掘中の中里城址のアピールのため、「理論より実行」を合い言葉に、山の上に人力でステージ資材・楽器を運び開催(90報告書より)。

当日は大阪・東京等県外からの十数人を含む400名が発掘現場を見学した後、大自然に囲まれた5千年の夢の跡で、古代ロマンをテーマにした河島英五の熱唱、特別出演石神純文太鼓の熱演に古代を偲び酔いしれていた。1年目、河島英五と石神純文太鼓。ステージの資材となる単管や200キロあるというミキサー・アンプ等をみんな息絶え絶えの状態で会場へ運んだ。会場の雰囲気はぴったりあった石神純文太鼓の演奏。

河島英五は「心から心へ」「人間の祖先」等を熱唱した後、パワフルなステージで400人の観客を沸かせ、7曲ものアンコールを激唱した。打上げの席での赤いタオルを頭にまいた河島英五の姿が忘れられない。(奈良修「心から心へ」)

特に第1回と第2回は河島英五と全ての機材を中里神明宮の境内に運び上げて行われた。神明宮が中里城址の郭の一角であり、高い木立の佇まいが5千年のいにしえを呼び戻すのにもっとも相応しいというからには、我々はその場所でコンサートをやるしかなかったのである。

しかし、まずステージを作り、大量の機材を一個づつ、人力で担いで運び上げることが必要であった。参画した男ども全員で急勾配の会談の一段一段に汗を滲み込ませながら、気の遠くなる往復を繰り返した。200キロを越えるミキシングマシンもあった。石神純文太鼓の太鼓を張る鉄杵も数人がかりで運ばねばならなかった。雨で客席のシートだと地面が冷たいということで急遽、折イスも用意しなければならなかった。

この馬鹿げた労役が、これをやり抜いたという自信が、「もの研」の原点になったかと思われる。中里町にこの様な無報酬の労務を黙々とやる仲間がいる、それは「もの研」だけにとどまらず、次々と大きな人の輪となってゆく可能性も秘めているという思いはコンサートの成功の喜びとともにお互いの信頼の絆になったからである。

(北川章男「歴史の新しい継承を」)

今までいろいろなコンサートに行きましたが、今回のくらい感動を覚えた素晴らしいものはありませんでした。特に河島英五はコンサートホール等でやることはあまりない人なので思いがけず今回のチャンスに出会えてうれしかったです。

大自然のなかで彼の声がとてもよく合っていて素晴らしい企画でした。アットホームな手作りのあたたかいものが、河島英五らしい個性的なライブとなり本当によい思い出を創ってくれました。(野辺地から車で2時間30分かかりましたが、それだけの価値がありました。X野辺地町枇杷野、46才、女性)

弘前から行って、中里という町もよく知らずに行きましたが、町の人のやさしさそして何より若い頃からのファンだった河島さんのコンサートに行けて、本当に幸せな気分でした。

結婚してしばらく子育てで何やらで、コンサートだなんて縁遠かったのですが、思い切って行って良かった。ますます大ファンになりました。河島さんの事は何も知らないけど、唄だけは好きでよく覚えています。日頃のつらい事、悲しい事、腹のたつ事、全部洗い流せた気分、最高でした。私にとって大きな刺激でした。ありがとうございました。(弘前市悪戸、33才、女性、会社員)

土器のたいこが非常に古代ロマンというテーマにマッチしてすばらしかった。河島英五ライブも大変楽しめました。(東京都太田区西蒲田、34才、女性、会社員)

最高でした。又あったら必ず来ます。タイコも素敵でした。(木造町松原、32才、主婦)

スバラシイ！思っていたとおりのコンサートでした。僕達の青春が河島さんでしたので、20才の頃が目の前にひろがりあの頃の時代がよみがえってきます。津軽からわざわざ来たか  
いがありました。すばらしい時間をありがとうございました。(浪岡町、38才、男性、自宅勤務)

木立の中でのコンサート、ステージも近く河島英五の歌が直接伝わって来る様で感動しました。子供達れの家族も多くふれあいコンサートみたいで良かったと思います。(仙台市青葉区子平町、32才、主婦)

古代ロマンを感じさせるライブに感動しました。松林をバックにした河島英五は、とてもマッチしてました。本当はこぶしを振り上げて、のりまくりたい私でした。(中里町宮川、38才、女性、公務員)

おもしろかった。大いに騒いだ。ねぶたの後ふきをした。来年も楽しみにしているよ。(五所川原市みどり町、36才、主婦)

とてもよかった。字が書けないくらい拍手をしてしまった。知らない曲がたくさんありましたが、一緒に唄ってしまった。(横浜市強見区、32才、女性、会社員)

小6の息子が大ファンで、ふるさとでのコンサートをぜひ見せてあげたかった。すばらしいコンサートでした。(埼玉県草加市新栄団地、12才、男性)

「時代おくれ」を聞いて、思わず涙が出てきました。私もカラオケでたまに唄う歌であり、今度新曲として出されると聞き、複雑な心境です。というのは「時代おくれ」は私だけの大切な歌であって欲しいというわがままな気持ちからです。

…ねたまめように、あせらぬように、飾った世界に流されず、好きな誰かを思い続ける時代おくれの男になりたい・・・

まさに、この詩のような男になりたいと思います。(五所川原市八重菊、30才、男性、公務員)

## 1992

2年目、河島英五・BORO・三遊亭歌之介・石神縄文太鼓が出演。関東・関西から29名がツアー

で参加。歌之介の落語に会場が爆笑の渦となり、BOROの力強く伸びのある声に圧倒され、河島英五が総立ちにさせて閉めた。

打上げも歌之介のリードで盛り上がった。BOROが即興で唄った「中里のロック」が印象的であった。後日ツアー参加者の半数以上の方からお礼状が届いた。(奈良 修「心から心へ」)

遠くは名古屋や大阪から河島英五のコンサートにかけつける人々がいた。2年目、我々はそういう熱狂的ファンの為にツアーバスを企画したのであるが、以下はその時のちょっとした話である。

平成4年8月1日のコンサート当日の朝5時に私は電話でたたき起こされた。それはツアーバスの引率の奈良君からだ。バスが大渋滞の為にまだ仙台にいるという。予定ではそろそろ県内に入らなければならない時刻であった。ツアー行程の朝食休息や、斜陽館の見学、そして金木駅から乗るはずの津軽鉄道のキャンセルを直ちに手配しなければならない。中里駅での歓迎セレモニーも中止せざるを得ないのか。私は暗澹たる気持ちになった。

ところが、キャンセルの連絡をしている中で津軽鉄道の天内支配人より申し出があった。予定の金木駅から乗れなくとも、バスの到着時間に芦野公園駅から臨時便を出してくれるという。即決であった。ツアーの一行は何とか間に合い、しかもストーブ列車仕様であった。中里駅での津軽三味線を始めとする色々な歓迎セレモニーも予定通り行われた。後日、ツアー参加者からの御手紙に英五さんのコンサートもねぶたのハネト体験もすばらしかったが、私には津軽鉄道の乗車体験と中里駅での思いがけない歓迎に最も感動し、涙が出る程うれしかったという方がいた。改めて天内支配人の好意に感謝するとともに「もの研」の各活動を通じて得た人と人とのつながりの生きた場面ではなかったかと思われる。

(北川章男「歴史の新しい継承を」)

### 感動した中里コンサート

昨年、中里町の町おこしグループ「なかさとのものがたり研究会」の友だちから「中里城址古代ロマンコンサート'91」を主催するので遊びに来ないかという誘いを受けました。それも私の大好きな河島英五さんを招いてのコンサートなので喜んで出掛けました。初めて聴く石神縄文太鼓と津軽者弥山に三味線に強い感動を受け、トンボやチョウが飛び交う中でのコンサートに心を洗われました。

今年は八月一日に開催されると聞き東京からバスツアーで参加しました。津軽鉄道の芦野公園駅から津軽中里町では列車に乗り、ホームに降り立ったとたん、津軽三味線の演奏が始まりましたが、少々疲れ気味の心にピンピン響き涙が出ました。津軽三味線には故郷を感じます。コンサート会場は昨年と同様に杉の木をバックにステージが造られていました。

今年は石神縄文太鼓、落語家の三遊亭歌之介さん、ポロさん、河島英五さんと盛りだくさんのコンサートでした。河島さんは、「ここは本当に日本一気持ちがいいリラックスできる町」と、気

持ちよさそうに歌っていました。

二日目はブルーベリー狩りを体験し、安藤文化の旧跡を見学、最後にねぶた祭りを跳ねる人と見学組に分かれて楽しみました。研究会の方々のパワー、至れり尽くせりの催しに感銘し、とても素晴らしい夏でした。来年もぜひ実行し、成功行かせてください。(東京都・小林真弓)

後片付けは、終わりましたか。今家に帰りつき、改めて奈良さんを始めとする皆様の御苦労に感謝の気持ちが込みあげてきています。コンサートは勿論、中里町のこと、英五さんという共通項で結ばれた皆さん達との出会い。新参者でしたが、本当によい機会を与えていただきました。又、お会いできることを…。(神奈川県藤沢市 女性)

文句のない最高のコンサートでした。たいへんいい歌です。これからもいい歌をたくさんつくってください。(12歳・黒石市男性)

今年もまた素晴らしい企画をありがとう。彼の歌をまた聞くことが出来、感激しています。南郷村のジャズフェスティバルといい、中里町のコンサートも今や地方に行かなくては味わうことの出来ないものがあったいいと思う。

若者に迎合するだけ、使い捨ての都会、育てる地方—これからの地方はそうありたい。都会の人間のキゲンをとることなど全くない。私たち青森のコンサートを誇りをもって続けたい。一人の人間を18歳まで書てくれたのは地方である。その若い力を吸収して都会は大きくなった。田舎をくいつぶして都会が大きくなったこと、都会の人間は認識すべきである。老人をかかえ込んで面倒をみているのも地方である。田舎に住んでいることに、もっと誇りを持ちましょう。

それにしても、同じ県内で、行きは迷い、帰りは浅虫の花火と交通事故の渋滞で8時間の道のり、付いたのは深夜でした。本当に大切なもを得るためには、うんと不便さを知ること大切だと思っています。スタッフの方、本当にありがとう。野外で聞く落語もいいものでした。石神縄文太鼓、素晴らしく成長しましたね、今後が楽しみです。(47歳・野辺地町女性)

このままでいいです。ずっと続けて下さい。河島さんのライブは最高です！またやって下さい。(17歳・五所川原市女性)

大変よかった。感激した。若い人向きだけど、とてもよかった。来年も続けてほしい。もっとたくさんの人に聴かせたかった。気持ちが若返った。ストレス解消にとってもよかった。生きる喜びを感じた。

野外コンサートでとてもよい。木々に囲まれ、頭の上がまっ青な空。背中から涼しい風が吹きなんとも気持ちのいいコンサートだった。歌曲、歌詞がよくわかってよかった。縄文

太鼓もいい。その昔、太鼓の音が原始的で、なんだか古代に帰ったようだ。BOROも三遊亭歌之介の落語もみんないい。実行委員の皆さま、ご苦労儀でした。(71歳中里町女性)

毎年同じような形のコンサートであれば参加者が減っていくと思う。出演者と参加者が一体となるようなコンサートでなくてはならない。その点では、去年、今年は大成功だったと思う。やはり、我々の年代が聞けるコンサートを企画してほしい。

ビールを飲みながらコンサートが聞けると思わなかった。特に河島英五ライブで会場総立ちのアンコールソングには私も調子にのってしまい、一番前に出て手拍子をしながら叫んでいた。青春を取り戻した気分興奮してしまった。帰宅してから妻にコンサートの様子を教えた。(37歳・市浦村男性)

椅子を急に用意してもらったようですが椅子があって大変楽でした。お手洗いが近くにあったらよかったです。もうちょっと広い(観客席)方がいいかなあと思いました。でもすごくあたたかい心のこもったもので大変感激しました。

石神縄文太鼓の響き、笛の音がとても古代のイメージで始めて聞いて興味がわきました。ちょっと失敗したかなアと気もしましたが、がんばって励む姿に“すごい打ち込み”とびっくりしました。私はツアーで行ったものです。コンサートの打ち上げでは、ただのほほーと遊びに来ていました。スタッフの皆さんが真中で後から見え、座られて疲れ静かに食事されているのを見て、すごく場違いのような(私の浮かれた気持ち)感じて悪いなアと心に引っかかりました。私はとてもコンサートツアーを楽しく過ごせて感動しています。友達と二人で“ゆかた”など着て目立ってしまったかもしれません。ちょっと浮かれ過ぎてすみません。

ライブに花火なんか出来たりしても面白いかなアと思いました。夜でない無理ですが。話がまとまってませんが、どうもありがとうございます。何も知らない、よそ者の私はただひたすら良い思い出となっております。お疲れ様でした。何回もお知らせを送ってくださったり、電話での問い合わせも応じてくださって、細かなところでもありがとうございました。(24歳・埼玉県女性)

いつまでも回を続けて下さい。何ものも企画には大変なご苦労があると思いますが、ささやかに喜んで人々もいることを忘れないで下さい。4才の男の子もとても喜んでいました。目がとてもキラキラしてステキでした。

今日は思いもよらぬコンサートの仲間に入れてもらって、本当によかったと思っています。石神縄文太鼓が森の中にひびき渡ると、なぜか古代人がいまにも出てきそうな、本当に雑音もなく太鼓と土笛がなんともいい音色で、これを言葉で表現できないのが本当に残念です。河島さんの全力で汗と勢気をつながれた友情のコンサートのようなのでした。BOROさんの方は、日本語をとっても大切に歌っているのには本当に驚きました。何でも外国語とよくいわれている現代なのに本当に心和む楽しく、新しい出会いと発見の機会を与えてくれてありが

とうございました。出来たら夕暮れ時にもう一度聞きたかった。( 56 歳・金木町女性)

今回は夕焼けを見ながらコンサートが始まり輝く星を見ながらのコンサートをやって頂けたらと息をします。やっぱり河島英五さんの歌は、自然の中で聴くのが合っていると思う。来年もぜひ、この中里で英五さんの歌が聴きたいと思う。きっと来年もやって下さい。よろしくお願ひします。( 42 歳・大阪府女性)

## 1993

午後 6 時半、会場の四方に置かれたかがり火が点火されると同時に、特別出演の「津軽情っ張り太鼓」の太鼓の響きで中里城址古代ロマンコンサートが開演した。さすが弘前ねぶたを飾りだけのことはあり、会場の観客はその迫力、力強さに心を奪われていた。

司会は、ATV ニュースワイドでお馴染みの宇津宮睦アナウンサーが務め、品があり、しかも臨機応変で柔軟な司会で場を盛り上げた。観客は、開場前から入口での整理に苦勞するほど集まり、最終的には、県内各地から約千人の人が集まった。

中里城址をバックにした村下孝蔵のコンサートが始まると、観客はその甘いすき通るような声、繊細な歌詞とメロディに聞き惚れていた。村下さんは、観客越しに見える中里の夕焼けに感動し、曲と曲との合間に話していた。

そして、日が暮れてからは、きらびやかな照明に浮かび上がった半円形の独特の形のステージ、澄みきった星空、周囲のやみに浮かび上がるかがり火が絶妙なコントラストを見せ、村下孝蔵のロマンチックな歌とともに、観客を幻想の世界へといざなった。

最後には、アンコールで大ヒット曲「初恋」を歌ってコンサートを終え、観客も満足のうちに帰路についた。( 92 報告書より)

3 年目、主催が「のれ！それ！中里」実行委員会となって、若手を中心とした新しいメンバーが加わり、その後の原動力となった。会場も中里町ふれあい広場に変更された。

出演は村下孝蔵と津軽情っ張り太鼓。情っ張り太鼓の伝統を感じさせる力強い響きで幕が開き、村下孝蔵の透明感のあるさわやかな歌声に 800 人を超える聴衆で埋まった会場が幻想的な雰囲気包まれた。

当日は、日中に色々なイベントが行われたためスタッフも大忙しで、コンサートの写真を撮り忘れるという大チョンボ。本報告書にある写真はビデオからプリントしたものである。

( 奈良 修「心から心へ」)

1993 年 3 回目の中里城址古代ロマンコンサートは、村下孝蔵のライブコンサートをメインに、弘前市の津軽情っ張り太鼓の皆さんが特別出願してくださった。

今回のコンサートは、主催がそれまでの「中里ものがたり研究会」から「のれ！それ！中里」実行委員会へ移行したこと、コンサート会場が神明宮境内から中里町ふれあい広場に変更になったこと、コンサートが夕方から行われたことなど、前 2 回のコンサートとは大きく異なる点があった。

今までは、小高い丘にある境内が会場ということで、資機材の搬入を人力( 正直これが大変だった) に頼っていたが、今回の会場は、ステージ脇まで車で搬入ができるため、大量の資機材の搬入が楽にできた。反面、前回までは必要なかった外部との遮蔽が必要になった。遮蔽の手段として道路沿いのフェンスに黒色の農業用ビニールシート貼り付けする方法で対処したが、当日は風が強く一部がはがれる( この失敗を踏まえ、次回から建設用の足場を組み、それに防護シートを取付けた。) 結果となった。また、ステージその他への本格的照明設備の設置も初めてであった。こういう作集になると組織力強化のために取り入れた実行委員会方式が非常に役にたった。なぜなら実行委員の中にそれぞれ専門分野の人達がいたからである。にしても初めてのことも多く、試行錯誤していた感がありました。

いよいよ、コンサートの開演、まず情っ張り太鼓の方々の演奏が始まる。夕暮れの中で勇壮な太鼓の音が響き渡る様は、幻想的で心に染み込むものがあった。私を含め観ている方々

が息をのんで聞き入っていたのが想い込される。

そして、村下孝蔵が出演、ギターを抱えた姿がスポットライトに浮かび上がる。演奏が始まり村下のうたが大音量で迫ってくる。耳だけでなくからだ全体で聴いているという感じがする。やっぱり生で聴くのはいい。加えて、色彩豊かな照明、観客が乗ってくる。出演者も乗ってくる。会場が一体となっていく。

村下孝蔵という人は、訛りのある正直さをうかがわせる素直でやさしい感じのしゃべり、全体の雰囲気としてはギターがものすごく上手いその辺のサラリーマンのお兄ちゃんという感じでした。

コンサート終了後の打上げ、「やってよかった。今度は何処何処の部分でこういう風にしよう。」今までの苦勞や疲れを忘れて、誰からもそんな言葉が出てくる。

種々のジャンルの仲間達と集うことで自分が少しでも向上できるような機会、好きだからこそですが、お互いに補いながら励みながらコンサートを実施することは、その意味でも有効な手段のひとつだと思います。( 副実行委員長 小野元尚)

2 年ぶりなので、ワクワクドキドキ。野外ステージは田沢湖高原以来です。やっぱり星空の下でのライブは最高でした。優しさとおたたかがいっぱいで心が安らぎました。ありがとう。

電話で「かざぐるま」の歌をリクエストしてそれを本当に歌ってもらえたのがうれしかった。(M・20)

いつ聞いてもほっとさせてくれる歌声に日ごろのストレスも忘れてしまいます。照明にも感じさせられました。ステージの型がかわっていいと思う。(W・38)

ちょっと寒かったけど、スタッフの熱意は感じられました。とても良かったです。(W・33)

地方のイベントとしてはなかなか良い。何もやらないよりは実行がともなっているのいいことだと思う。(M・25)

天気恵まれて、しかも、大好きな歌手のコンサートで、これ以上の楽しみがない程でした。野外コンサートでも、音響が大変良くて大満足でした。関係者に暑くお礼申し上げます。(M・41)

ドーム型のステージはかわっていておもしろい。(W・33)

みなさん盛り上げようとして一生懸命うごいていたと思います。(W・20)

感動しました。ということありません。大ファンだったので、大よろこびで来ました。(W・25)

天気がよくて、よかったですね。これからも実行委員会の方々がんばってください。(W・25)

中里町の皆さん(婦人部の方々)のいっしょうけんめいさが伝わってくるよう。150円の焼きそばが印象的でした～安くてうまい!!(W・33)

生き生きしている。出店の料金がとても安いのにはびっくりしました。関係者の方々ごくろうさまです。(W・38)

## 1994

今年の中里城址古代ロマンコンサートは、8月21日に昨年に引き続き中里城址をバックに、中里町ふれあい広場の野外ステージで行われた。

前日まで雨がふり、当日朝もぐずついた空模様でスタッフを心配させたが、昼頃から天気は快方へと向かった。中里城址古代ロマンコンサートは、毎年のように開催日直前まで悪天候が続くが、なぜか当日は晴れ上がるというパターンが続いている。

夕闇迫る開演の午後6時前には、なつかしの、あるいは伝説の「フォークの神様」岡林信康を見ようと、青森・八戸・三戸・野辺地・十和田等を初めとする県内各地から約500人の観客が会場に集まった。

今年のオープニングは、津軽三味線坂田会の演奏から始まった。坂田会は、地元中里町を中心に木造町・鶴田町・車力村のメンバーで構成され、その迫力あるダイナミックな演奏で、今非に注目を浴びている三味線グループである。津軽三味線に太鼓や笛を加えてロックやねぶたばやしを取り入れた、従来の津軽三味線のイメージを覆すようなその迫力のある演奏に観衆は引き込まれ、会場は早くも盛り上がりを見せ、その余韻が冷めないうちに岡林信康コンサートが始まった。

岡林信康は、最近エンヤトットのリズムを積極的に取り入れているため、出だしからアップテンポの軽快な曲が続く、軽快なおしゃべりと共に観客を引き付けた。太鼓・三味線等をバックに従え、民謡をモチーフにした判り易く乗りやすい歌が多いため、子供からお年寄りまで皆楽しそうに手拍子をしている。中盤になって、なつかしのフォーク時代のヒット曲が歌われると、その度に会場から大きな拍手とどよめきの声があがる。

その後はまたアップテンポの曲で会場を盛り上げ、体を揺らしながら手拍子をするものや、歌に合わせて踊る光景があちこちで見られた。最後は会場総立ちで大きな盛り上がりのうちにアンコールを終え、真夏の夢のような一時は終わった。音楽・コンサートの原点を見せてくれたようなコンサートに、観客は満足そうに帰路についた。

※余談になるが、岡林信康はその後の打ち上げ会場でもアンコールの続きを歌い、みんなでねぶたを跳ねるほど場を盛り上げてくれた。(94報告書より)

4年目、フォークの神様「岡林信康」と地元中里町の「津軽三味線坂田会」が出演。津軽三味線の新たな可能性を感じさせた坂田会の力強く迫力のある演奏に会場が圧倒された。

岡林信康は過去の栄光にすがらずに、三味線・太鼓のバックを従えて新境地であるエンヤトットのリズムのノリのいい曲を主体に、若者からお年寄りまで盛り上がらせた。打上げでも岡林信康のパワーは爆発し、アンコールの続きを熱唱して会場を沸かせ、坂田会の横笛をバックにみんなで真夜中にねぶたを跳ねた。(奈良修「心から心へ」)

坂田会の演奏はすばらしい。ねぶたばやしの正調を初めて意識的に聞いた(今までは、単純なメロディのくりかえしと思っていた)。それが、なんと微妙な音の流れなのか、三味線に笛、たいこが加わったとき、津軽人の血が体内でざわめき、この時ほど、青森のねぶた

を誇りに思ったことはない。岡林さんの昔を知る人は、「山谷ブルース」を切望しているようでした。来年のコンサートはどんなかな……？楽しみにしていますので中里の皆さんがんばってくださいね。(女 33:金木町)

そちらは森田村でも中里町でも、本気で音楽で町おこしをやるというパワーを感じてうらやましい限りです。こちちも頑張ろうと思いました。エンヤトットは最高！(男 41:七戸町)

まさか中里でこの様なコンサートを観る事ができるとっておきませんでしたので、とてもうれしかったです。ぜひ来年も参加したいです。「もっとたくさんの人に来て頂かかったです」(女 33:青森市)

ステージホールの上に、東風に乗って次々と雲がわき、幻想的な雰囲気醸し出していた。かがり火も興を添えていたが早めに消えたのが残念。屋外ステージでの飲みかつ食いながらのコンサートもまた楽しいこと、新発見。田んぼの中の異空間という形がより一層よかったが、校舎の反射が音がややきつかった。(男 38:弘前市企画課)

近頃、これ程注意深く歌詞に耳を傾けて歌を聴いたことがあったらうか。リズムに走ろうとも、歌詞がやはり岡林の魅力です。ちょうどこのコンサートの前日、NHK でなつかしのフォーク特集をやっていて岡林が 6 位に入っていたので、びっくりした。(女 35:五市川原市)

今までのフォークよりとてもリズムカルな感じで好感が持てました。(女 39:田茂木)

ノリが良くてとてもすばらしい！とても聞きやすく、とても楽しいコンサートでした。(女 38:豊岡)

昔の曲も歌って欲しかった。ノリは、まずまずよかった。重感商法で、CDやVIDEOを本当に買ってしまいそう(?)。来年も期持しています。(男 38:三戸町)

20 年ぶりに又岡林信康のコンサートを観れるとは夢にも思っていないませんでしたので、とてもうれしいです。(男 38:青森市)

岡林信康は話がとてもおもしろくて、良かった。お母さんが反対しなければ、ビデオもCDも買いたい。またききたいと思った。(女 11:田茂木)

坂田会は、JAZZ と HIPHOP の追求を別の意味においてなしている(本人たちの意思とは別に)。でも、リズムセッションをアレンジはいただけなかった。生ドラムのループの方が今

ぼくていいと思う。(男 22:高根)

スタッフの皆さんごころうさま。又中里のために頑張ってください。(男 60:上豊岡)

## 1995

5 年目となった今年は原点に帰り、1 年目の出演者である河島英五・石神縄文太鼓と地元の中里町横笛愛好会の出演となった。これまで過去 4 年、当日だけなぜか晴れ上がるというパターンが続いて来ていたが、今年も数日前から不安定な天候が続いた。当日は一旦ふれあい広場のステージに舞台を設営したものの、昼過ぎに雨がこぼれてきて断腸の思いで急遽会場を勤労者体育センターへと変更した。

会場に風を入れて野外の雰囲気を出したいとの河島英五の強い要望で、窓を全部開放した異例のコンサートとなった。悪天候にもかかわらず 600 名ほどの観客で会場は埋まった。中里町横笛愛好会の賑やかなオープニングでお祭り気分が盛り上がる。3 年ぶりとなった石神縄文太鼓は、その間ニューヨーク公演も実現し、今では青森を代表する太鼓の一つとなった。今回は、新レパートリーである石をつかった演奏をも加え、古代の雰囲気をかもしだしていた。

同じく 3 年ぶりで、4 度目の中里公演となった河島英五が登場すると、会場はのっけから熱気に包まれた。河島英五も新曲を中心に、ノリのいい曲やしっとりとした曲をおり混ぜながらがんがん飛ばしていく。途中からは観客が総立ちとなりノリまくった。会場内の盛り上がりを見ているだけでも楽しい。最後は、これでもか、これでもかとアンコールに込め、万雷の拍手の中コンサートを終えた。(奈良 修「心から心へ」)

とにかく中里の青年の方々が汗びっしょりになって郷土の良さを伝えていきたい、という意気込みが感じられて活気あふれています。河島英五さんもそれにこたえて力いっぱい歌ってください、それが伝わってきました。(♀:八王子市)

盛り上がりの中でも、しっかりみんなの心をつかむ歌があり、とても素晴らしかったです。(♀ 41:中里)

ラジオ等の PR で「のれ！それ！中里」の事は聞いていましたが、こんなにすばらしく、たのしくすごした事に、大変感動しました。もうすぐ 50 才に事がとどく年代になってしまいましたが、久しぶりに 20 代にもどったひと時でした。(♂:十和田市)

何より残念だった事は、自慢の野外ステージでの公演が出来なかった事です。日中雨が降りたり止んだり、空がうらめしい5回目のコンサートでした。

でも夜になり、雨や虫の心配なしのステージの盛り上がりを見たら室内は又それなりの雰囲気を感じられてよかったです。準備の方の苦労は2倍だった事でしょう。体育センターの入口でお店の売子になったら良く売れて、この瞬間に若い人に交わってスタッフの一員だと云う気分を味わいました。都合のいい時より参加できないおばさんですが、結構楽しんでます。(実行委員 葛西美奈子)

ステージと参加した人の心が溶け合い、ひとつになる事は、とても素晴らしい事だと思います。目に見えてゆく活性化より、素朴で心の中にあたたかく響き渡る歌声や、楽器の音は、何よりも私の心に深く刻まれました。町民でありながら、中里町を意識するという事は、殆どなかったのですが、このコンサートに参加できた事で、考えさせられることが沢山ありました。是非、有りつづけてほしいと思います。すごく、楽しませて、頂きました。(♀ 26: 八幡)

すばらしいコンサートありがとう。遠くから飛行機に乗ってまで来た甲斐がありました。又来年もぜひ来たいな。(♀ 71: 豊橋市)

今回初めて参加しましたが、準備を始めてからあつという間にすぎ去っていったようです。河島英五のコンサートは、いつのまにか自分も一緒に歌っていました。

こんなに楽しいのに今回で最後と聞き、残念だと思っていたのですが、コンサートの次の日の昼食のときに皆が来年の計画を立てているのを聞き、来年も楽しみです。(実行委員 三上光)

「終わりよければ、すべてよし」といいますが、コンサートを通して、人間生きている限りいろいろな事が起きるし、その問題を解決してまた人間が一つ大きくなっていくことを仲間から教えられました。

いろんな経験をしてきて、今、心から「よかった」といえる毎日です。出会いのすばらしさ、仲間への思いやりを大切にしていきたいです。本当にご苦労様でした。(実行委員 佐藤節子)

今回で4度目でしたが最高でした。来年もまた楽しみにしています。スタッフのみなさんごくうさまでした。(♀ 43: 高根)

## エピローグ

平成3年(1991)より始められた中里城址古代ロマンコンサートは、平成11年(1999)の完結編をもって一応の役割を終えた。それから5年、古代ロマンコンサートに拘わった人々には過酷な運命が待ち受けていた。

平成11年完結編の二ヶ月前には、平成5年(1993)に三回目に登場した村下孝蔵の訃報がもたらされ、翌12年夏には「のれ! それ! 中里」実行委員会会長奈良修が志半ばにして、突然この世を去った。河島英五は、その死を深く悲しみ、メッセージと追悼文を寄せた。

<p>千加子様、御家族の皆様、たくさんの方の御様子。しらせを聞いて信じられず、しばらく声も出ませんでした。そして、20数年前、彼がまだ学生だった頃のはじめての出会いや、一緒に岩木山に登った時のこと……数々のコンサート……思い出しました。まだまだこれから20年、30年…月日と共にもっともつといい友達になってゆけると思っていたのに。無念です。あまりにも早過ぎる——それは私なんかよりも何百倍も皆の方がくやしいことだと思います。でも、彼は決して無駄には生きてこなかった。家族を愛し、故郷を愛し、歌を愛し、フロッピーを愛し。ふつうの人なら愛したものを遠くから、たがながめているだけでも知れないのに、彼は愛したものを全部自分のところに引き寄せ、かかかってゆこうとした。抱きしめようと。すごいパワーだなどいつも僕は思っていた。僕だけじゃなく、そんなふうに思われてしまった人は皆、彼のことが好きになり、彼のあとへ自然と集</p>	<p>まて来てしまうのです。② 「太陽のような人だな」と思っていた。彼に会うとなぜか「陽の光」を浴びたようにほころびてしまうのである。だから、「少しやせないとおぼないぞ」と会うたびに言ってきたけれど、ついつい「あましてどうしりかま文書している方が奈良君らしいのかな」と強く言わなかった。もつきつく言てやれば良かった。それが悔やまれる。彼がいなくなっても彼の残した「人のつながり」はずっと残して欲しい。遠くへしよゆうは会えなくても、僕もメンバーの一員の一員でいます。浩子さん、一志君、英里香さん、お父さんがいなくても、お母さんを助けてしっかり生きて下さい。あなたたちのお父さんは本当にすばらしい人でした。そして、「英五おっちゃん」のこと、ちゃんとおぼえておいて、大人になって何かわからないことがあったら相談に来て下さい。2,000 7.12 河島英五</p>
--	--


39歳の若さで大切な友人がこの世を去った。彼の名は奈良修。人は彼を熱心な「英五ファン」と言う。女の名前には「英」の字と政郷、青森県中里町から「里」の字を選んで「英里香」と名付けたらしいから、と。でも僕にとっては彼はかけがえのない友人であり、この先お互いに絆を重ねて、もっともっといい関係になっていくはずだと思込んでいた。だから電音で「そのことを知らされた時も「何を言ってるの？」って感じ、しばらく声も出なかったのだ。

彼とはじめて出会ったのは、もう20年以上も昔のこと、ぼじまりは「オーケションカー」とそのファンだった。1筆は也と「酒と胡——」を世に出すことが出来、彼は故郷を離れて東京で学生生活を送っていた。どこかのライブハウスの密席で彼は僕の歌に合わせて大きな体をゆらゆら揺らした。体は大きい、顔はあどけないと言うか、かわいい感じ、でも骨から穿つ姿が印象的だった。彼はどのコンサート会場でも密席の最前列を陣取るというこの体無かった。いつも前から10列目くらいの席で三つ並んで座って居た。大学を卒業して青森に帰ってからは、さすがに学生時代のような「追っかけ」はできなくなったが、年に数回、東北や関東方面のコンサートにひょっこり顔を見せられた。「おお！久しぶり元気かよ——友あり、遠方より来たる——」鹿子のまじわりは涙きこえ水のごとし——って感じのつきあいか、僕にはとても心地良かった。

僕も彼もビールが大好きだが、理由は違った。彼は仲間達とビールを「まじり、注がれたり」するのが好きなんだと言う。彼は学生時代にも僕らのコンサートを企画してくれたが、青森に帰ってから何回か僕のコンサートを観に来てくれている。そしてそのたびに「大層なファンだね、本当に楽しそうよ、仲間達と「まじり、注がれたり」して、あみ、ふるさどを持つてこういうことなんや存、とうちやましくなるともなす。まじり、注がれたり、昔も僕も、彼の「まじり」でくるビールはうま、自然に「まじり」注がれたりしてしまうのだ。

「河島英五が『人生の野匠』と周りの人達に書いてくれたようにだが、部下の誰の方が僕なんかより、うんと大人だと思ふこともあった。『卒後の新曲はオンパレード』英五さんに似合ふな、と思ふんでは、ボリッと言ってくれたこと、一筆は也に載ったこと……」こんな話をあつた別れ方があるのなら、もっともビールを飲みながら、思い出を語りあいたがた。彼が愛した家族や政郷の仲間達とのつながりをこれからも大切にしたい。それが、せめてもの奈良修への供養だと思いたい。

2000.8.2 会



「旧友再会」は、河島英五が入院中のベッドで完成させた未発表曲であり、見舞いにきた友人には、退院後この曲の録音を約束している。最後のライブとなった、亡くなる二日前に演奏された。一説には前年に亡くなった二十年来の友人奈良修を念頭においてつくられた曲であり、一回忌に唄われる予定であったとされる。

奈良修を失った仲間の悲しみと虚脱感は、もの研座長北川章男による追悼に端的にあらわされている。

「なかさとものがたり研究会と奈良修君」

あれほど暑かった今年の夏も九月の下旬にきて漸く、急に涼しくなってきた。夏のイベントの仕掛け人たちがほっと一息つき、冬に向かうぬくもりの中で、また懲りもせず、来年の企画について思いをめぐらす時である。

しかしこの夏、「のれ！それ！中里」実行委員長の奈良修君を失った我々の心の中にはぽっかりと大きな穴が空いたままである。携帯電話には彼の番号が登録されたままだし、メールのアドレスも削除する勇気がどうしても起きないのである。

本当に彼はこの町に必要な人間であった。彼が亡くなって二ヶ月、「奈良修の代わりにはいない」ということだけを我々は認識せざるを得ないでいる。

平成2年頃、彼は青森市から中里へUターンしてきた。

そして、すぐになかさとものがたり研究会の仲間になり、彼の個人提起がきっかけで、平成三年から五年連続、夏に“中里城古代ロマンコンサート”をやった。

古代ロマンコンサートは第一回と第二回が、なかさとものがたり研究会の主催で、中里神宮の境内に登って、河島英五さんと成功を収め、第三回目から第五回目までは「のれ！それ！中里」実行委員会が中里町ふれあい広場の野外ステージで、村下孝蔵さん、岡林信康さん、河島英五さんということで、それぞれ大発展してゆき、人の輪がひろがった。

中里城址のPRという目的で始まったこのコンサートは、人によっては、これはごく限られたファンにしか興味を与えない、町民の大多数には波及していない、という評価を受ける。まったく、その通りであると思うが、私としては、これも現在の「なかさとまつり」に影響を与えたと思うし、町内にその後出来たショッピングセンターや文化センターの中身の構築にも少なからず貢献したのではないかと考えている。少なくとも、「奈良修」というスーパー仕掛け人を生み出したのである。

彼とわたしは「もの研」や「のれそれ」だけでなく、商業界同友会や商工会役員、アクトプランの役員からPTAの会長、私のパソコンの先生にいたるまで、四六時中、一緒にいた。

しかし、彼にはその他、パンクラス青森後援会事務局長、河島英五ファンクラブ事

さらにその10ヶ月後には一編の唄を残したまま、自身が病に倒れ、帰らぬ人となった。

旧友再会 作詞・作曲 河島英五  
 今日ほ本当に笑った  
 腹の底から笑った  
 夕べはあんなに寒いでいたのに  
 君に会えてよかった  
 今日酒はつまかった  
 気持ちよく酔っ払った  
 ひどりでしんみり飲むのはつらいが  
 今日酒はつまかった  
 フラ……  
 共に過ごした青春  
 今日では笑い話さ  
 もしももしもやり直せるのならほ  
 もしもしもくやいやいたいね  
 今日ほ本当に笑った  
 腹の底から笑った  
 わさわわ「じま」で訪ねて来て  
 今日ほ「じま」が「じま」  
 ……  
 わさわわ「じま」で訪ねて来て  
 今日ほ「じま」が「じま」



務局、中里高校同窓会会長、趣味の会、そしてなにより、しじみ亭や白鳥ドライブインや総合不動産鑑定西北連絡所という本業の経営や勉強があった。その為に県内はおろか、東京へでも、大阪へでも、一年中飛び回っていた。彼はそのほとんどの会長でもあり、幹事でもあり、会計でもあり、広報でもあり、作業員ですらあった。奥さんや子供さんとの時間も大切にされた。

かれが企画を清書するためにパソコンに向かうのはいつも深夜であった。彼は私たちのために、忙し過ぎ、その為に戦死したのかもしれない。

彼は誰からも好かれた。ちょっとユーモラスな巨体で、あの甲高い声で、何処へでもここにこと、目を輝かせていた。よく食べ、よく飲んだ。運転手役をやらせられることが多かったのに、「懇親会」にも必ず残ってくれた。我々の中には一理屈や批判は強いが行動が伴わないというタイプが結構多いが（私もその一人である）彼は不平や不満を言わない人だった。それでいながら、的確な判断力を持ち、ユニークな提言を誰よりもしてくれる人だった。そして、手がけたことは全て続した。

奈良修君は、風のように我々の前に現れ、風のように三十九歳で去っていった。残された我々は、彼の存在の無いこれからの生活の味気なさを予想して、暗澹たる思いがつるばかりである。合掌

「のれ！それ！中里」実行委員会は、現在も活動を続けている。奈良修の遺志を受け継いだ蝦名直志会長を筆頭に「アマチュアバンド・フェスティバル」「アコースティック・ライブ」「真夏のストーブ列車」等多彩な活動は、町内外に知られ、青森県活性化大賞特別賞を受賞した。

コンサートが行われた神明宮境内は、鬱蒼とした杉木立に囲まれ、静寂に包まれている。古代ロマンコンサートの存在を物語るのは、ひっそりと佇む「のれ！それ！中里」碑と、青春を費やした人々の記憶だけである。

中里城址のPRという目的に向かって開催してきたこのコンサートも、5回目という節目のコンサートを終え、中里城址の整備も始まった今、一つの役目は終わったのではないかと考えている。来年以降については全く白紙の状態である。ただ、今年で古代ロマンコンサートを終えるにしても、「のれ！それ！中里」実行委員会としてはなんらかのイベント・活動を行っていくつもりである。そして、中里城址の整備が完成した際には、なんとしてももう一度あの山の上で「中里城址古代ロマンコンサート」をやりたいと思っている。

今まで、このコンサートを続けてくるにあたって、色々な方々にお世話になってきた。特に、スポンサーとして協賛頂いた方々には、心苦しい気持ちで一杯であった。毎度のように少なくとも協賛金を頂き、感謝の気持ちで一杯である。

また、出演者にも恵まれてきた。ほとんど毎回本人はノーギャラに近い状態で出演してくれた河島英五を始め、BORO、三遊亭歌之介、村下孝蔵、岡林信康、皆人間的に素晴らしい人たちであった。特別出演の方々もまた同様である。

そして何よりも、スタッフに恵まれてきた。若輩の私の軽くもない体をこれまで持ち上げて頂き、本当に感謝している。このコンサートを通じて「心から心へ」と広がった人のつながりは、今後も一生大切にしていきたいと思っている。

我々のこのコンサートが、中里城址の知名度のアップに少しでも貢献することができたなら幸せであります。

最後に、これまで中里城址古代ロマンコンサートの開催に際してご支援とご協力を賜りました多くの方々に重ねてお礼申し上げます。どうもありがとうございました。（奈良 修「心から心へ」）

5年間、私達はコンサートを通じて数多くのことを学んだ。もっと多くの町民の方も巻きこもうと「のれ！それ！中里」という実行委員会形式に移行し、人と人の輪はなかさまつりの再生という形でも実を結んだ。全てこのコンサートがスタートではなかったかと思われる。

そのコンサートは色々な人達に支えられて続いてきた。その全ての方たちに5年目を終えた今、心から感謝申し上げたいと思います。心から心へ…（北川章男「歴史の新しい継承を」）

